

氏名：有村咲希

【テーマ】
指導者、サポートスタッフの視点から考察する
身体障がい者へのコーチングの在り方

【動機】
パラ競泳選手のコーチになりたい！

【ここが面白い！】
障害の種類や程度によって指導方法やコミュニケーションの取り方が大きく変わりそう！

【今の進捗】
パラ水泳の試合にスタッフとして参加し、
サポートスタッフの関わり方を実際に
体験している。
今後、パラ水泳の指導者にインタビュー
を実施する。



氏名：後野真衣

レンズカラーが運動中の心拍数および
心的状態に及ぼす影響

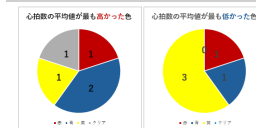
「見える色によって運動能力が向上する？」

パフォーマンスアップにつながる色を
徹底調査！

研究方法

- [4分(エアロバイク)+5分(休憩)]×4set
・運動強度：体重×0.025KP
・各setで4色(赤、青、黄、クリア)の
サングラスを着用
・2種類のアンケートの実施

進捗(対象者5人分の結果)



運動中の心拍数の平均値は、
特定のカラーレンズにおいて
高くなるという傾向はなかった。
黄色レンズの時に最も低い
傾向にあった。



修士学生の修論テーマ紹介

なぜ競泳選手はスタート台をつかむのか
— 腕の使い方が「飛び出し」を変える? —

台を押すのではなく
“上に引く”
それが飛び出しを
変えるかも。

現在、引く力を分析中！



修士1年：池田匡佑



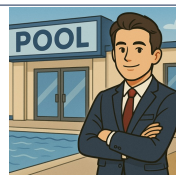
氏名：杉浦涼一

【テーマ】
スイミングクラブの経営モデルを作る！

【動機】
通ったスイミングクラブが閉館して、
自分がクラブを作りたいと思うようになったから。

【ここが面白い！】
実際に経営者のお話を聞けること。
もし自分がスイミングクラブ作るなら、
こうしたいな〜って考えるのが楽しい！

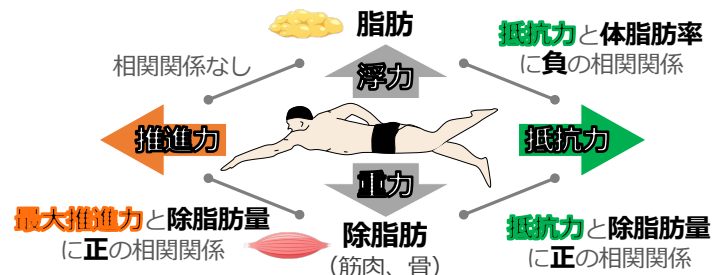
【今の進捗】
インタビュー内容をまとめ中
それを踏まえて現実的な経営モデルを模索中



成田の昨年度の主な研究成果

Narita et al. (2025) Journal of Science and Medicine in Sport, 28 (7), 581–586.
大学生男子競泳選手において、身体組成はクロール泳中の抵抗性に影響するのか？

- ✓体脂肪率が6.3-12.0%の男性泳者では、体脂肪率の高い泳者の方が同一泳速度での抵抗性が小さい
←体脂肪率が高いと身体密度が低いいため浮きやすく、抵抗性が低くなる可能性。(ウェットスーツや最大吸気状態と同様の効果)
- ✓除脂肪量が大きいと大きな推進力の発揮に関連するが、同様に大きな抵抗性も招き、最高泳速度とも関連なし
←泳速度を向上するためには、推進力を大きくするだけでなく、抵抗性を小さくすることも大切。



学部3年生の卒論テーマ（予定）紹介

【井上光聖】テーマ：競泳選手に音楽聴取が心理状態と競技パフォーマンスに与える影響

← 動機：ドライ中、練習中、レース前に音楽を聴いている選手が多いけど、パフォーマンスに影響するのか。

【奥沢 望】テーマ：競泳現場における選手の“感覚(主観)”と流体力の関係

← 動機：マネージャーとして活動する中で、選手の言う“感覚”が客観的に何を表しているのかが気になった。